

(様式 1)

令和6年度指定管理者による公の施設の管理状況評価表

1 施設名 (所管課)
富山県創業支援センター 地域産業振興室

2 施設所在地
富山市蓮町一丁目 7 番 3 号

3 施設設置年度
令和 4 年度

4 設置目的
県内における創業を支援するための環境を整備し、もって地域経済の活性化に寄与することを目的とする。

5 施設概要
SCOP TOYAMA (富山県創業支援センター 1 棟、富山県創業・移住促進住宅 2 棟)
敷地面積 11,065m²
富山県創業支援センター
鉄筋コンクリート 4 階建て
延床面積 1,480.76m²

6 指定管理者
蓮町創業支援拠点運営共同体

7 指定期間
2 年10ヶ月
令和4年6月1日 ~ 令和7年3月31日

8 利用者数及び利用(使用)料金収入の状況

(1) 利用者数(人) ※この他、参考となる指標があれば追加

R2	R3	R4	R5	R6
-	-	372	1,572	1,789

(2) 利用(使用)料金収入(千円)

R2	R3	R4	R5	R6
-	-	1,562	6,877	7,259

(3) 利用料金収入見込み額(利用料金制導入施設の場合)

R2	R3	R4	R5	R6
-	-	928	4,816	6,848

9 評価項目

(1) 利用者数・収入の増減に対する評価

・入所については昨年度同様、入所者の入れ替わりが発生したが、空きが出れば、すぐに新規入所申込みが入るという状態が継続している。
・貸室紹介に特化したパンフレットを作成し、イベント時に配付するなど広報施策を行ったことで、貸室利用についても緩やかに利用者が増加している。

(2) サービス向上に向けた取組み

令和6年度から、以下の取組みを実施。
・SCOPラボの外部利用制度の検討・募集開始
・入所者向けの本棚の設置(2階コワーキングスペース)

(3) 利用促進（収入増）に向けた取組み

令和6年度から、以下の取組みを実施。
・運営スタッフのGoogle活用研修
・コワーキング利用の回数券の本格導入
・登記可能な月額コワーキング会員制度の試行

(4) 利用者のニーズ把握や苦情への対応

① アンケート結果

実施方法	セミナーやイベントの参加者を対象にアンケートを実施
回答者数	95名
結果	「わかりやすかった」「満足した」が回答者の97%
結果を踏まえた改善事項	・参加者からの反応は概ね好評であり、特にワークショップは概ね好評であったものの、アンケートの回収率が50%に満たない回も多数あった。 ・アンケートの回収率を上げられるよう、QRコードを紙で配布、peatixでリマインド、ドロップインのチケットクーポンを付けるなどした。

② その他利用者の声を反映させる取組み

・「事務局へのご意見や連絡」「イベント」「掲示板」「なんでも相談」などのチャンネルを設置し交流の場としてslackを活用

③ 主な苦情と対応

・季節の変わり目に、空調が正しく稼働しない。
→創業支援センターは「マルチエアコン」で、室外機1機で複数の室内機を制御しているため、同一の室内機を使用するエアコンで、冷房・暖房が混在すると正しく空調が稼働しないことが分かった。
今後は、夏季(冷房運転期間)、冬季(暖房運転期間)として、運転ルールを設け、入所者に協力を求める予定。

(5) 個人情報保護の取組み

・個人情報に関するルールを定め、スタッフに周知を図っており、適切な個人情報保護が図られている。

(6) 関係団体との連携

・県外のインキュベーション施設と連携し、施設や入居者のPRを実施。

(7) 施設・設備の維持管理

・日常的な清掃に加え、床、ガラス、空調等の特別清掃を実施しており、利用者へ快適で衛生的な施設を提供できている。設備に不具合が生じた場合も維持管理業者による迅速な対応を行い、安心安全な施設の提供に努めている。

(8) 危機管理・安全管理などの取組み

・緊急連絡通報体制図(連絡網)ならびに緊急事態対応マニュアルを作成するとともに、避難訓練(年2回)を実施し、適切な危機管理・安全管理に取り組んでいる。

10 所管課の管理運営確認状況

- ①定期報告の受理
- ②維持管理・運営状況等の担当職員現地確認
- ③個人情報に関するトラブルの有無
- ④危機管理・安全管理上のトラブルの有無

有／無	回数(有の場合)
有	12
有	12
無	－
無	－

【トラブルの具体的内容と対応】

無

11 今後の課題等 (収入確保、経費削減、サービス維持向上等の観点から今後の課題を記載)

・オフィス、シェアオフィス、チャレンジショップは満室稼働で安定した運営が継続できている一方で、コワーキングスペースや貸室は、外部からのさらなる利用促進が必要である。
・当施設は入所期間に上限(原則3年間)があるため、現在入所している入所者の方々の卒業をどう支援するのが課題であり、入所者の属性やステージに応じた支援を行って行くことが必要と考える。